

妙高市 - スロベン・グラデッツ市 姉妹都市交流について

○概要

- ・ 日本・スロベニア間における唯一の姉妹都市協定
- ・ 1999 年に交流開始、2001 年に協定締結。
- ・ 妙高市にかつて存在したリゾート施設のスキー場建設に、スロベニア人スキー選手（サラエボ五輪銅メダリスト）が協力したのが妙高市とスロベニアとの交流の発端、両市には、ウィンタースポーツが盛んな土地柄という共通項がある。
- ・ 協定締結時の日本側自治体は新潟県新井市。2005 年 4 月に、新井市、妙高高原町、妙高村の合併により、妙高市が発足し、姉妹都市協定も引き継がれた。

○過去の経緯

- 1996年 5月 新潟県新井市（当時）に存在した第三セクターリゾート施設「新井リゾート」において、スロベニア文化を紹介する「スロヴェニア・ウィーク」がはじめて開催された。
- 1999年 6月 新井市長、市議会議長がスロベン・グラデッツ市を表敬訪問。
- 1999年10月 新井リゾートにおいて「スロヴェニア・フェスティバル」開催。スロベニアからの訪問団を迎えた大々的に紹介なイベントとなり、学校訪問、親善パーティー、児童・生徒による絵画交換なども実施された。
- 2000年 6月 スロベン・グラデッツ市長が、新井市を表敬訪問。
- 2000年 8月 新井市から、市民代表団がスロベン・グラデッツを訪問。
- 2000年10月 新井リゾートにおいて「スロヴェニア・フェスティバル2000」の開催。前年同様、スロベニアからの訪問団を迎えた大々的に紹介なイベントとして実施。
- 2001年 9月 新井市にて、姉妹都市協定調印。
新井リゾートにおいて「スロヴェニア・フェスティバル2000」の開催。
- 2001年10月 スロベン・グラデッツ市にて、姉妹都市協定調印。
新井リゾートにおいて「スロヴェニア・フェスティバル2001」の開催。

その後、主として高校生による相互訪問や、絵画交換などを継続的に実施。

- 2004年 6月 新井市長がスロベン・グラデッツ訪問。
- 2004年10月 スロベン・グラデッツ市長及び市民団が、新井市を訪問。
- 2005年 4月 妙高市の誕生。
- 2010年10月 妙高市教育長及び市民代表団が、スロベン・グラデッツを訪問。
- 2011年10月 スロベン・グラデッツ市長および市民による訪問団が、妙高市を訪問。
スロベン・グラデッツにおいて、10年間の交流を綴った記念誌の出版。
- 2012年11月 妙高市より8名の高校生がスロベン・グラデッツを訪問。入村市長も当地を訪問し、本使及びスロベン・グラデッツ市長、同高校校長と共に20周年記念植樹を行う。

注1：新井リゾートで「スロヴェニア・ウィーク」が企画されたのは、スロベニア人スキーヤーでサラエボ五輪銅メダリストのユーリ・フランコ氏が、同リゾートのスキー場建設に協力したことが理由の一つ。その後もたびたび「スロヴェニア・ウィーク」（のちに「スロヴェニア・

フェスティバル」) が開催され、これを市民レベルの国際交流イベントにしようという機運が新井市民の間に生まれた。これを受け、新井市はスロベニアとの姉妹都市関係構築を模索し、この案を「スロヴェニア・日本友好協会」や在日スロベニア大使館が支援、スロベン・グラデツ市がパートナーとして選ばれた。

○ 参考情報

スロベン グラデツ市

人口約 17,000 人

国連ピースメッセンジャー都市（日本では横浜、広島、長崎、東京）。スロベニアの 11 特別市のうちのひとつ。マリボル 2012 欧州文化首都、開催都市のひとつ。

新潟県妙高市

人口約 35,000 人

2005 年 4 月 1 日 新潟県新井市に中頸城郡妙高高原町及び妙高村を編入。改称して「妙高市」が誕生。姉妹都市交流は、新井市が締結したもの。

以 上